

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 4ク ォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 4, 木 / Thu 5
開講期間 / Class period	2016/12/02 ~ 2017/02/15		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587008501	科目番号 / Subject code	05870085
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 11921_005		
授業科目名 / Subject	病気と薬を考える (薬との賢い付き合い方) / How to wisely get along with medicines		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	植田 弘師 / Ueda Hiroshi, 塚原 完 / Tsukahara Tamotsu, 田中 隆 / Tanaka Takashi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	植田 弘師 / Ueda Hiroshi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	植田 弘師 / Ueda Hiroshi, 塚原 完 / Tsukahara Tamotsu		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	全学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	ueda@nagasaki-u.ac.jp ttamotsu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	薬学部4階 創薬薬理学研究室		
担当教員TEL / Tel	095-819-2421, 2473		
担当教員オフィスアワー / Office hours	特になし (入室する前に必ずメールをすること)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	薬の消費者として薬と賢く付き合うためには、薬に関する理解を深めることが必要である。本講義では、「痛み：疼痛」の医学的な基礎を理解するとともに、「痛みと社会」という切り口から自主的に課題を決定し、学ぶことをねらいとする。		
授業到達目標 / Goal	興味ある課題を自分でみつけることができる。(目標 ) 必要な情報を適切に収集し分析することができる。(目標 ) 自分の意見を積極的に表現することができる。(目標 ) 他者との意見交換を建設的に行うことができる。(目標 ) 主体的な学習の基礎知識を習得し、効果的に活用できる。(目標 ) 学問の技法について理解を深める。(目標 ) 他人の価値観を寛容できる。(目標 )		
授業方法 (学習指導法) / Method	教科書、資料の内容に沿った講義、教員、TAを交えた討論により基礎知識を修学する。学生による基礎知識、自主学習に対するプレゼンテーションを行い、質疑応答の結果を踏まえて、報告レポートを作成し、提出する。		
授業内容 / Class outline / Con	人間にとって最も不快な症状のひとつである痛みを取り上げ、痛みの種類、しくみ、治療薬といった医学的な基礎を理解する。また、「痛みと社会」について主体的な自主学習を行う。最終的に、基礎知識と自主学習に対する学習成果をプレゼンテーションし、質疑応答を踏まえてレポートを提出する。		
キーワード / Key word	薬の効果、薬の働き、副作用、生体の機能、病気、痛み、鎮痛薬		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書：はじめての痛み学 (おうふう)		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	考査 (30%)、授業に対する積極的な取り組み状況 (70%)		
受講要件 (履修条件) / Requirements	授業外に週2時間以上、調査、情報整理、レポート作成などのために充てること		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)	<a href="http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/soyakuri/index-j.html">http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/soyakuri/index-j.html</a>		
学生へのメッセージ / Message for students	教科書を熟読すること。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	痛みについての基礎知識I、学習テーマの提案・決定		
第2回	痛みについての基礎知識II		
第3回	痛みについての基礎知識III		
第4回	基礎知識の学習テーマごとの打合せI		
第5回	基礎知識の学習テーマごとの打合せII		
第6回	基礎知識の学習テーマごとの打合せIII		

第7回	基礎知識に対するプレゼンテーション、質疑応答I
第8回	基礎知識に対するプレゼンテーション、質疑応答II
第9回	基礎知識プレゼンテーションに対する議論、評価コメント、レポート提出
第10回	痛みと社会の学習テーマの提案・決定、テーマごとの打合せI
第11回	痛みと社会の学習テーマごとの打合せII
第12回	痛みと社会の学習テーマごとの打合せIII
第13回	痛みと社会に対するプレゼンテーション、質疑応答I
第14回	痛みと社会に対するプレゼンテーション、質疑応答II
第15回	痛みと社会プレゼンテーションに対する議論、評価コメント、レポート提出

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/06/04		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587009301	科目番号 / Subject code	05870093
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 11941_005		
授業科目名 / Subject	病気と薬を考える (疾病と薬物治療) / Diseases and drug therapy		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	塚元 和弘 / Tsukamoto Kazuhiro, 田中 隆 / Tanaka Takashi, 近藤 新一 / Kondo Shinji		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	塚元 和弘 / Tsukamoto Kazuhiro		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	塚元 和弘 / Tsukamoto Kazuhiro, 近藤 新一 / Kondo Shinji		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2・3・4年次		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	ktsuka@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	医歯薬学総合研究棟7F 薬物治療学 (坂本キャンパス)		
担当教員TEL/Tel	095-819-8573		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月~金 9:00~17:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	自律神経失調や肥満やうつ病について、疾患や病態の概念や治療法(薬物療法を含む)について学 ぶ。さらに、日常生活習慣との関連やその改善法について考える。		
授業到達目標/Goal	自律神経失調や肥満やうつ病について概要を理解できる。( ) 興味のある課題を自分でみつけることができる。( ・ ) 必要な情報を適切に収集して分析することができる。( ・ ) 自分の意見を積極的に表現することができる。( ) 思考法について理解し実践することができる。( ・ ・ ) ディベートについて理解し実践することができる。( ・ ・ ・ ) 他者との意見交換を建設的に行うことができる。( ・ ) 他人の価値観を真容できる。( )		
授業方法 (学習指導法) /Method	まず、思考法(マインドマップとKJ法)を学んで実践する。次に日常生活習慣と関連づけながら それぞれの疾患や病態の概念や治療法を学ぶ。最後に、ディベートを実践して批判的思考と表現力 を身につける。		
授業内容/Class outline/Con	1回目 オリエンテーションと種々の思考法を知る(塚元) 2回目 マインドマップを実践し、結果を発表する(塚元) 3回目 KJ法を実践する(塚元) 4回目 KJ法の実践結果を発表する(塚元) 5回目 自律神経の働きと異常を来す生活習慣を知る(塚元) 6回目 自律神経のコントロール法を思考して発表する(塚元) 7回目 肥満の原因と病態生理を知る(近藤) 8回目 肥満の予防について考える(近藤) 9回目 肥満の治療について学ぶ(近藤) 10回目 肥満と社会の関わりについて考える(近藤) 11回目 うつ病の診断と治療、予防について学ぶ(近藤) 12回目 うつ病と社会の関わりについて考える(近藤) 13回目 ディベートを実践する1(塚元・近藤) 14回目 ディベートを実践する2(塚元・近藤) 15回目 総括(塚元)		
キーワード/Key word	思考法, 自律神経, 肥満, うつ病, 生活習慣, ディベート		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	なし		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	予習課題 20点, 授業参加度 30点, 発表 30点, レポート 20点の計100満点中60点以上を合格とする 。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	6回以上の欠席は失格とする。		
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	課題を与えるので必ず予習して来ること。		
授業計画詳細 / Course Schedule			

回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
4月8日金3	オリエンテーションと種々の思考法を知る(塚元)
4月8日金4	マインドマップを実践し, 結果を発表する(塚元)
4月15日金3	KJ法を実践する(塚元)
4月15日金4	KJ法の実践結果を発表する(塚元)
4月22日金3	自律神経の働きと異常を来す生活習慣を知る(塚元)
4月22日金4	自律神経のコントロール法を思考して発表する(塚元)
5月6日金3	肥満の原因と病態生理を知る(近藤)
5月6日金4	肥満の予防について考える(近藤)
5月13日金3	肥満の治療について学ぶ(近藤)
5月13日金4	肥満と社会の関わりについて考える(近藤)
5月20日金3	うつ病の診断と治療, 予防について学ぶ(近藤)
5月20日金4	うつ病と社会の関わりについて考える(近藤)
5月27日金3	ディベートを実践する1(塚元・近藤)
5月27日金4	ディベートを実践する2(塚元・近藤)
6月3日金3	総括(塚元)

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 1ク ォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 4, 木 / Thu 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/06/04		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587049301	科目番号 / Subject code	05870493
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	病気と薬を考える (薬草・健康食品と病気) / Medicinal plants, health food, and disease.		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	田中 隆 / Tanaka Takashi, 松尾 洋介 / Matsuo Yosuke, 齋藤 義紀 / Saito Yoshinori		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	田中 隆 / Tanaka Takashi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	田中 隆 / Tanaka Takashi, 松尾 洋介 / Matsuo Yosuke, 齋藤 義紀 / Saito Yoshinori		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp (田中 隆)、saiyoshi@nagasaki-u.ac.jp (齋藤義紀)、y-matsuo@nagasaki-u.ac.jp (松尾洋介)		
担当教員研究室/Laboratory	薬学部3階天然物化学研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2432, 2433, 2434		
担当教員オフィスアワー/Office hours	質問などはメールで受け付け。面談の場合もメールで日時を調整。		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	植物や微生物など自然界の生物は、さまざまな目的で多種多様な化学物質を作り、人間はそれらを薬、食品、染料などとして利用してきた。一方で、中毒や刑事事件など社会をさわがせる物質もある。この科目では、実験や観察を交えながら、生物が作る物質の性質、生理作用、存在意義、利用法、社会的意義などについて学び考察する。		
授業到達目標/Goal	植物の利用方法について理解できる( ) 薬や食品の恩恵とリスクについて理解できる( ) 情報を集め、議論して、まとめることができる( ) 薬や食品の科学的扱いについて実践し、説明できる( ) 地域産業での植物の利用を調べ理解できる( ) 地域貢献について情報を集め計画を立案できる( ) アイデアを発表し、他のアイデアを評価できる( )		
授業方法 (学習指導法) /Method	授業は、液晶プロジェクター、板書、プリント等により行う。また、Webでの調査とそれをもとにしたグループディスカッションとプレゼンを行う。植物観察や小実験をすることもある。LACSを活用した演習なども行う。		
授業内容/Class outline/Con	第1回 導入講義：動植物由来の薬や食品などについて、恩恵とリスクの例示。 第2回 からだの中の化学物質と薬・毒・食品。組み合わせや前処理がもたらす変化。 第3回 薬と毒のリスクに関するSGD(1) 調査経過報告と討議 第4回 薬と毒のリスクに関するSGD(2) 調査経過報告と討議 第5回 薬と毒のリスクに関するSGD(3) プレゼンテーションと自己フィードバック 第6回 薬と毒のリスクに関するSGD(4) 最終プレゼンテーションと評価 第7回 植物に含まれている化学物質を見る方法(小実験1) 第8回 植物に含まれている化学物質を見る方法(小実験2)とグループ討議 第9回 地域資源の産業的利用と地域振興 (講義) 第10回 地域資源を活用して産業を興そう(1) 資源、組織、方法、"出口"を考える 第11回 地域資源を活用して産業を興そう(2) 調査取りまとめと討議 第12回 地域資源を活用して産業を興そう(3) 取りまとめとプレゼンテーションの準備 第13回 プレゼンテーションと評価 第14回 プレゼンテーションと評価 および フィードバック 第15回 講義(補足と評価)		
キーワード/Key word	薬、食品、植物、成分、からだ、化学、利用。地域振興		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書：スパイス、爆薬、医薬品・世界史を変えた17の化学物質、P.ルクーター他著、中央公論新社； 殺人・呪術・医薬、毒と薬の文化史 ジョン・マン著、東京化学同人； 毒と薬のひみつ、齋藤勝裕著、ソフトバンククリエイティブ、毒物雑学辞典、大木幸介著、講談社ブルーバックス、他		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業への出席、授業中の課題への積極的な取組態度(60%)、演習(40%)、レポートまたはLACSによる演習を含む)。		
受講要件(履修条件)/Requirements	授業外の時間に週2時間以上、調査、情報整理、レポート作成などのために充てること		
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考(URL)/Remarks(URL)	<a href="http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/natpro/index-j.html">http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/natpro/index-j.html</a>		

学生へのメッセージ/Message for students	積極的に課題に取り組み、グループ内でのコミュニケーションをとること。調査し予備知識をつけてから授業に臨み、自分の意見を述べるができるようになること。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	導入講義：動植物由来の薬や食品などについて、恩恵とリスクの例示。
第2回	からだの中の化学物質と薬・毒・食品。組み合わせや前処理がもたらす変化。SGDの課題提示とグループ分け。
第3回	薬と毒のリスクに関するSGD(1) 調査経過報告と討議
第4回	薬と毒のリスクに関するSGD(2) 調査経過報告と討議
第5回	薬と毒のリスクに関するSGD(3) プレゼンテーションと自己フィードバック
第6回	薬と毒のリスクに関するSGD(4) 最終プレゼンテーションと評価
第7回	植物に含まれている化学物質を見る方法(小実験1)
第8回	植物に含まれている化学物質を見る方法(小実験2)とグループ討議
第9回	地域資源の産業的利用と地域振興 (講義)
第10回	地域資源を活用して産業を興そう(1) 資源、組織、方法、"出口"を考える
第11回	地域資源を活用して産業を興そう(2) 調査取りまとめと討議
第12回	地域資源を活用して産業を興そう(3) 取りまとめとプレゼンテーションの準備
第13回	プレゼンテーションと評価
第14回	プレゼンテーションと評価 および フィードバック
第15回	講義(補足と評価)
第16回	予備日